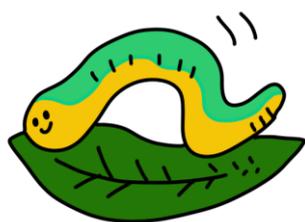


職員リレーエッセイ

「^{むしめ}虫愛づる姫君だった頃」

ニコニコハウス鳴海

サービス管理責任者 山田 志穂

幼い時の私の話をさせて頂こうと思います。私は昔から昆虫などの生き物が大好きでした。自宅の庭で植木鉢や大きな石を裏返す時のゾクゾク感は今でも思い出します。場所によりけりですが、そこにはダンゴ虫やミミズ、ヤスデ、ゴミムシ、ナメクジ等がウヨウヨいるわけです。変な子ですが、宝探しの様な気分で虫探しをしていました。特にしゃくとりむしの動きが大好きで、捕まえたら小枝に這わせて、伸び縮みするその動きをひたすら眺めていた記憶があります。その“しゃくとりむし棒”を持って、誇らしげに仁王立ちをして頬笑む写真も残っています。自分でも笑ってしまいますが、「おままごと」よりも「昆虫探し」が大好きな男の子の様な女の子でした。幼い子供は残酷な所があり、クモの巣に別の虫をわざと引っ掛けて捕食の様子を眺めたり、コンクリートブロックの穴に棲みついたトカゲに生餌を与えてみたりという事もしたものです。夏には、4歳年上の兄と公園へ行き木の根元にできた穴に小枝を入れて蟬の幼虫を捕まえて家に持ち帰り、その幼虫を網戸に掴まらせて孵化の様子を観察したりもしました。とても神秘的でした。そうやって、自然に「命の尊さ」を学んだように思います。

大人になった今でも、昆虫を見ると何故か興奮します。先日などは京都のお寺を散策していると、虹色に輝く何かを発見…。「わ～！タマムシだ！珍しい！」と、死骸と分かっていながらそのタマムシを思わず手に取り眺めました（一緒にいた人はドン引きしていました）。こんな具合で、未だに宝探しの気分なのです。最近で言うと畑から収穫してきたブロッコリーに私の好きなしゃくとりむしが付いていて、思わずニンマリしてしまいました。蝶ではなく、蛾になるかもしれないやつです。それでも何とか成虫にさせてあげたいという思いで、ブロッコリーの葉やキャベツを与えて飼育？しています（笑）上手にサナギとなり、成虫へと進化を遂げてくれるでしょうか…今からドキドキしています。

平安時代の短編物語集の中に、「虫愛づる姫君」という毛虫を愛する姫の話があるそうです。このエッセイのタイトルにも引用しました。さすがに年齢的なもので「姫君」恥ずかしく、遠慮して「姫君だった頃」としたわけですが、「虫愛づる」という点では今も昔も変わっていない私なのでした。

次は総務の大須賀さんにつなぎます

低料第三種郵便物許可

平成 年 月 日発行（増刊）

A J Uニコニコハウス通信（第 号）（ ）